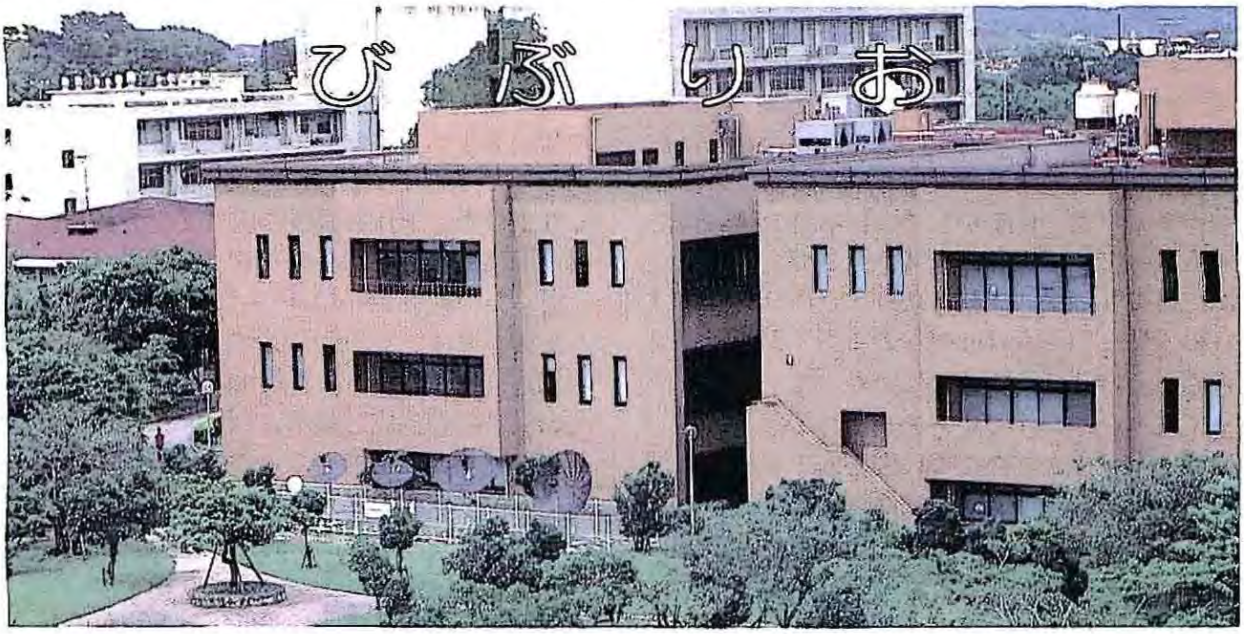
ISSN 0286-8229



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.32 No.3 (No.123) July 1999

図書館と私

安次富　長昭

琉球大学創立期の私の資料の中に、1953年の図書館閲覧証(貸出票)がある。それは、琉球大学4年次学生のときのもので、借りたのは「セザンヌ」1冊のみ、9月26日に借りて、10月3日の返却予定日を2日も遅れて10月5日返却したと、記録はそれだけで終わっている。あんまり本を読んでいなかった証拠のようなものだが、それにはわけがある。

1950年(昭25)、首里城跡に開学した当時の図書館は、キャンパス入口附近の右手にあって木造赤瓦葺の平屋の建物であった。喜びいさんで入学した大学は、教室に机、腰掛もなく、授業の教科書や参考書もなかった時代だから図書館だけが大学らしい施設であった。(註、当時の沖縄の小中高校には図書館はなかった。)

真先にとび込んでみたのは図書館であること

目次

図書館と私…… 1
平成10年度学長プロジェクトの
成果報告会…… 4
便利で役に立つコーナーのご案内
情報検索コーナー、オープン・
サテライト、留学生コーナー、
国際資料室…… 6
あなたもサーチャー
～情報検索に強くなるために～…… 9
琉球大学附属図書館のあゆみ
－シリーズ⑥－……11
沖縄関係資料新着案内……18
本学教官著作寄贈図書案内……21
図書館事情……22
図書館映画会……23
お知らせ……24

附属図書館のホームページ（http:// www.lib.u-ryukyu.ac.jp/）もご覧下さい。

はいうまでもない。ところが書架を見て驚いたのは、本の殆んどが洋書である。私の専門の美術の本や画集など全くなかった。それでも初めて見る洋書のいろいろな写真や挿絵などにひかれて、図書館の床に何時間も座りこんでいることが多かった。何年かして、日本語で書かれた本も入ってくるようになり、そこで見つけたのが前述の「セザンヌ」である。それまで本は読むのではなく見るだけのものであったので、図書館から借りてくる必要はなかった。初めて借りて読んだ本が「セザンヌ」というわけである。当時は本が少かったために図書館の貸出期限も1週間であった。(註、現在は2週間)必死になって読んでも2日遅れの返却となった。

私が在学中に借用して読んだ本はその1冊だけだが、それが私の絵画思想に大きなインセンティヴを与え、今日のフォルムを築くきっかけとなったのである。特にセザンヌの構図論は、実際に作品の中にとり入れながら試みていったものであるが、理論と実際は別問題で、その後私の絵が次第に理屈っぽくなって面白味がなくなり、絵を止めたくなるほどのスランプに落ちていった。そのスランプからどのようにして這い上がることができたかは、私の作品集の小論「安谷屋正義と私」に述べてあるので省略するが、それによって、私は今日の自分の作品のフォルムを築くことができたのである。まさに図書館で出会った一冊の本からの出発であった。

1954年(昭29)芸術科を卒業した私は、図書館の隣にあった事務所に就職した。そこは米国民政府情報教育部のオーディオ・ヴィジュアル・セクションの施設で、1階はKSARのラジオ放送局、2階は私たちの展示課だった。仕事は主に、全琉の琉米文化会館に発送する展示物や政府の出版物のデザインや印刷などを行なっていた。デザイン監督官として就職した私のところに最初に舞い込んだのは、琉米親善委員会H.R.ディフェンダーファー委員長依頼のポスターであった。

「幸運の鍵は誰に、當たる！一等・百二十万円」「志喜屋図書館の建設に協力しましょう」「抽選券一枚…百二十円」(註、当時は米軍票のB円)「抽選日、一九五四年五月二十六日」「主催：琉米親善委員会」等の文字を緑色の地色に白い鳩が鍵をくわえた図柄と一緒に配置したデザインである。これは琉大の開学と初代学長・志喜屋孝信氏を記念して、新しい図書館を建てる資金づくりのための沖縄で初めて行われた宝くじのポスターである。原画は手描きで、製版や印刷もすべて手作業で行われ、8人の職員総がかりで1000枚のポスターを2週間ほどでつくり上げた。それを全琉の琉米文化会館や市町村役所に配布して募金のPRをした。

宝くじの純益金451万円余(B円)に寄付金などを合わせて、2,175万円余の工費をかけ、1955年12月11日、向かい側の敷地に5階建の志喜屋記念図書館が完成し献納された。私が琉大を卒業した翌年のことである。この思い出深い図書館は、大学が西原に移転するまで首里キャンパスのシンボルであった。

次に私が図書館とかかわるようになったのはずうっと後のことで、1982年(昭57)私が所属していた教育学部ビルが西原の新キャンパスに完成し、教官室や実験室の移転準備のため下見に行ったときのことである。前年に移転完了し、9月から開館していた現図書館に寄ってみた。立派な建築の玄関正面に不似合いの「附属図書館」という表札がはめ込まれているではないか。しかも文字も明朝体や楷書体などがまちまちに使用されていて不揃いである。大学のシンボルである図書館の表札としては風格のないデザインである。

むかし首里王府時代、尚温王は1898年(尚温4)に国学を創建したとき、国王みずから「海邦養秀」という文言を考え揮毫し、その扁額を正庁に揚げたという。同じ首里城跡に開学した琉球大学にもこれぐらいの哲学があっても良いのではないか。正面の表札は学問のシンボルとしての文言を刻むべきで、大学の中心に位置するこの場所にはシンボルとしての表札を設置した方が良いのではないかと木崎甲子郎館長(当時)に進言した。館長は即座に同意され、それではどのような文言にするかということになり、話しているうちに書庫の奥から古い扁額をとり出してきた。それは首里時代図書館に揚げられていた、湯川秀樹博士が揮毫された「学而不厭」の書である。言葉の意味を調べてみると、これは論語の一節で「学び、学び、そして学ぶ。決してあきることはない。」(中国古典名言事典より)ということだから図書館にふさわしい言葉である。早速それをデザインして表札を制作することにした。ひと月ほど扁額を借用して私の

研究室に掲げ、表札をとりつける空間に合わせて、文字を1.3倍に拡大し、各文字の間隔を調整しながら原図を制作した。石材は、県内産最上の石である久米島仲里村島尻の山からとり出した輝石安山岩を使用することにした。この石材は、1971年(昭46)本土復帰準備のため琉球政府屋良主席から「沖縄県庁」の表札のデザインを依頼されたとき、「琉球大学」の表札や医学部の献体「慰霊」碑の石材などと一緒に、当時の平良盛忠仲里村長からご寄贈いただいたものである。(註、翌年から村条例によって輝石安山岩は島外持ち出し禁止となる。) 文字の彫刻は、県庁表札と同じく沖縄大理石の石嶺実彦社長の手彫りによる制作をお願いした。7月頃図書館長の制作依頼を受けてから2か月かかって表札はめでたく完成し、9月2日にその前で除幕式が行われた。(「びぶりお」Vol.15 No. 5 参照)

1985年(昭60)頃になると外国からの留学生が増えてくる。これまでの「学而不厭」の表札だけでは留学生たちには図書館がわかりにくいということで、依頼を受けて「図書館 LIBRARY」の複表札を制作することになった。文字は、和文を明朝体、英文を角ゴシック体を使ってデザインし、裏面には「昭和56年9月1日首里より移転する」と記録を入れることにした。黒御影石に文字を彫刻し、1985年(昭60)2月に完成した複表札を正面玄関階段下右手に設置した。

さらに、同年10月「志喜屋記念図書館」の銘板の製作を図書館長から依頼された。移転完了の一環として、初代学長志喜屋孝信博士(1884-1955)の功績を讃え、その功績を永く後世に伝えるため、首里キャンパスに建設されていた志喜屋記念図書館の名称を継承するためである。銘板は和文と英文を配置して真鍮で作成した。1986年(昭61)3月27日、正面玄関中央の大理石の柱に取り付けられた銘板の前で、志喜屋先生長女の嘉陽御夫妻をお招きして除幕式が行われた。

以上で図書館の表札や銘板のデザインおよび製作はすべて完了したのであるが、そのほかに図書館の環境デザインにも私はかかわった。1984年(昭59)1月に正面玄関前の広場の設計を施設部より依頼された。向かい側の法文学部3階の教官研究室から眺めてみると、プロムナードや建築物などがすべて東西に走る軸上に配置されていて直線的である。せめてこの広場だけでも柔らか味のある雰囲気を出そうと法文側の法面(のりめん)を曲線にし、ふたつの榕樹の植えこみの囲いを円形にした。この形態がまるでヴィーナスの胸に似ているので、自分では勝手にヴィーナス広場と呼んでいる。また、図書館には学術資料としての図書だけでなく、芸術作品も収蔵する必要があるのではないかと館長の依頼で、美術工芸科の退官教官の作品5点の寄贈を受け、現教官の作品6点を寄託してもらって内部壁面に展示した。(「びぶりお」Vol.17 No.1 および Vol.32 No.1 参照)

振り返ってみると、私の図書館とのかかわりは、図書や学術資料とのかかわりよりも表札デザインや環境デザインを通しての図書館づくりにかかわっていたようである。後日談であるが、元京都大学庶務部長が図書館の「学而不厭」の書をみて、本物は琉大にあるのだねと私に言った。どういうことかと訪ねたら、同じ書が京大の湯川秀樹記念館にもあるが、それには落款が無いが琉大のものには落款が有るので本物だという。実は私が玄関の表札をデザインしたとき、落款が有るのと無いのとでは芸術的価値が全く違ってくるので、先生は亡くなられているが奥様にお願いできないものだろうかということで京都まで持って行って押印して戴いたものである。その後私はもう一度その書を見ようと図書館を訪ねた時、係官が奥の金庫から白手袋をつけて持ち出してきたのは、なんと私が以前にひと月も自分の研究室に掲げてあったあの古びた扁額ではなく、真新しい絹で裏打ちされた立派な軸物に姿をかえているではないか。私は驚きと同時に図書館事務部のイキな働きに感心し、琉大のすごい宝物に面会した思いをした。

先日、私は或る歴史資料を調べるために、県立図書館と琉大図書館に数日通って郷土資料室にとじこもっていた。図書館というのは何と楽しい所か。沢山の先達の知識や心がそこに濃縮されてあるではないか。静かな部屋でそれらに接していると無限の時空の中に自分の心が広がり、ほんとに時間がたつのも忘れてしまう。それは図書館での初めての経験であった。湯川博士の「学而不厭」というのは、こういう心境なのかとひとり感じ入っていた。

(あしとみ　ちょうしょう：名誉教授)

平成10年度学長プロジェクトの成果報告会

平成11年5月21日に、桂学長及び寺島事務局長、川島風樹館長、その他関係者の方々をお招きし、附属図書館多目的ホールにおいて平成10年度学長プロジェクトの成果報告会が行われました。

この学長プロジェクトとは、桂学長のご発案によるもので、琉球大学が所蔵する学術情報資料を活用して、学外への学術情報資料提供（人々との知の共有）を実現するプロジェクトです。特に、地域へ開かれた大学を意識し、学問の面白さや自然の不思議さを子供達へ伝えたいという願いが込められています。

このプロジェクトは平成9年度から推進されており、初年度は「琉球大学学術情報資料提供システム」を始動し、附属図書館が所蔵する宮良家古文書の画像や大正時代のガラス写真画像を附属図書館ホームページから提供しました。2年目となる平成10年度は、学内の資料館（風樹館）が所蔵する資料の学術情報や琉球方言音声データベースが新たに追加されました。

資料館（風樹館）は、農学部近くのオレンジ色で曲線を持った建物で、沖縄独自の自然や文化を背景にした学術的、歴史的、芸術的価値の高い資料や標本を収集、保存、展示しています。今回は、川島由次資料館館長や佐々木健志技官のご協力を頂き、約20,000点の所蔵資料目録データベースや、沖縄に生息している貴重な生物生態写真を中心に所蔵物等の写真を約500点提供しています。

また、琉球方言音声データベースは、附属図書館研究開発室の室員である高良富夫（琉球大学工学部教授，音声情報処理），名嘉順一（元琉球大学教育学部教授，方言学・音声学），狩俣繁久（琉球大学法文学部助教授，方言学・音声学）、沖縄言語研究センターのスタッフのご協力を頂き、文部省科学研究費（研究成果公開促進費）を得て行う琉球方言データベース作成事業（3ケ年計画）の初年度成果を提供しています。内容は、国内外の方言学、音声学、実験音声学などの分野で、琉球方言の基本的な研究資料として、また、一般の人々にも楽しく、興味深く、気軽に利用できるよう、琉球方言音声資料や民俗資料をふくめた総合的なデータベースとして、広く提供できるものとなっています。

学長プロジェクトは附属図書館ホームページからご覧になれます。
http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/academic/

あいさつをする桂学長

風樹館データベースについて
説明する佐々木技官

琉球方言音声データベースについて
説明する狩俣助教授

学長プロジェクトによる
琉球大学学術情報資料提供システム
http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/academic/
RED DATA BOOK
ガラス写真
ガラス写真

便利で役に立つコーナーのご案内

情報検索コーナー

（本館２階メインカウンター前）

誰もがコンピュータを利用して簡単に情報検索ができること、またそれを支援するための情報リテラシー教育を行うことを目的として設置されたコーナーです。

現在、15台のパソコンを配置しており、以下の情報検索がご利用いただけます。

① 琉球大学附属図書館所蔵資料の目録が検索できる“ＯＰＡＣ”

② 全国の大学図書館所蔵資料の総合目録が検索できる“Ｗｅｂｃａｔ”

③ 雑誌論文等の検索ができる“ＣＤ－ＲＯＭデータベース”

④ 新聞記事、技術文献、事典類、書誌・目録、経済・ビジネス等の情報検索ができる“ＤＬＳ（デジタル・ライブラリー・システム）”

⑤ インターネット上の様々な情報

このコーナーでは上記情報検索をすべて無料で開放しており、利用者ＩＤやパスワードの申請もいりません。気楽にご利用いただけます。簡易なマニュアルも備え付けてありますのでご活用ください。

開館中はいつでも利用可能ですが、いつも混んでおり、午前中、あるいは夕方６時以降であれば比較的すいています。なお、情報検索結果を保存したい場合は、フロッピーディスクをお持ちになってください。情報検索専用ですので、その他の目的での使用は隣のコーナーの総合情報処理センター・オープン・サテライトのパソコンをご利用ください。

また、このコーナーではコンピュータを利用した情報検索を支援するため、Library Workshop Programと銘打っての講習会を定期的に開催しています。基礎的なコースから用意しておりますので、新入生の方（やパソコンに触れたことのない方）も気軽にご参加ください。

上記情報検索やLibrary Workshop Programについての詳細は

図書館ホームページ（http:// www.lib.u-ryukyu.ac.jp/）をご覧になってください。

◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇◇◆◇◆◇◇◇◇

「オープン・サテライト」

（情報検索コーナー横：総合情報処理センター施設）

～「自分ちに　パソコンなくても　e-mail」～

図書館２階のカウンター前にずらっと並んでいるパソコン。右と左で大きくスペースが分かれていますが、右側の方が総合情報処理センターの「オープン・サテライト」です。

このオープン・サテライトにある計22台のパソコンは、琉球大学の学生ならいつでも自由に使えるものなのです。つまり、自分でパソコンを持っていなくてもこのコーナーのパソコンを使えば、「Excel」等のパソコンソフトはもちろん、e-mailやインターネットも可能なのです。「まだパソコンはやったことないんだ」という学生さんもチャレンジしない手はありません。

●**利用の準備**：「ユーザーID」「パスワード」「e-mailアドレス」登録
オープン・サテライトのパソコンを使おうとする方は、まず「ユーザーID」と「パスワード」を取得しなければなりません。この「ユーザーID」と「パスワード」はパソコン起動時に必要になりますので、工学部の敷地内にある総合情報処理センターで「課題登録申請」を行ってください。

手続きがすんだら早速パソコンを使ってみましょう。いろいろなパソコンソフトはレポートや卒論作成に便利でしょうし、e-mailは手紙や電話とはひと味違ったコミュニケーションツールです。(e-mailアドレスはID申請時に取得できます。) またインターネットでたくさんのホームページを訪れてみれば、膨大な情報量に驚くかもしれません。このオープン・サテライトにはパソコンのほかにレーザープリンタも1台準備されていますので、プリントアウトも気軽に行えます。

パソコンを利用するに当たって皆さんにお願いしたいことがいくつかあります。まず、このオープン・サテライトのパソコンは図書館のものではありません。図書館側は場所を提供しているだけですので、使い方の指導やコンピュータのトラブルへの対応は原則として行っていません。プリンタもよく故障してしまうのですが、修理等はすべて総合情報処理センターが行っています。(プリンタ用紙の補給のみ、カウンターの職員が行いますので、用紙切れの際はカウンターへお越しください。)

e-mailの送り方、パソコンソフトの使い方などは、大学の授業をとったり、自分で本を読んだりして (図書館にもパソコン関連の本があります。)、使い方を習得してください。また長時間パソコンを一人占めしたり、自分勝手に設定を変えたりして、ほかの利用者の迷惑にならないようにしてください。本や論文を検索するときは「情報検索コーナー」、e-mailやインターネット等は「オープン・サテライト」というように図書館内のパソコンを使い分けてください。

パソコンの技能や、いろいろな方法で情報を集める能力を「情報リテラシー」といいます。オープン・サテライトのパソコンを使って各自のリテラシー能力を向上させて、これからの情報化社会にたち向かってください。

このコーナーについての詳しいことは総合情報処理センターまで。

ホームページアドレス
http:// www.cc.u-ryukyu.ac.jp/
電話 (学外・公衆電話より) 098－895－8948
(内線電話より) 8948, 2750

情報検索NEWS

雑誌記事索引の検索が便利になりました。
これまで＝1985～1999まで
これから＝1975～1999まで
(1975～1984は「ＤＬＳ」から利用します)
Ｊ－ＢＩＳＣ (国立国会図書館蔵書目録 CD-ROM版) が利用できます
これまで＝冊子体蔵書目録
これから＝1948～現在までのＪ－ＢＩＳＣ (国内出版物の目録)

留学生コーナー

（本館３階ブラウジングコーナー）

『居ながらにして世界の情報を手にできる場所』をコンセプトに、留学生向け図書・海外衛星放送受信システム、e-mailやインターネット利用等のための端末が集結しているコーナーです。留学生同士、また日本人学生とのコミュニケーションの場として大いにご活用ください。

◉海外衛星放送受信システム

サービス開始当初（平成10年５月頃）は約40チャンネルのみの視聴でした。その後、チャンネル設定作業を鋭意行い昨年までに131チャンネルまで増設、また今年からはご要望のあった韓国衛星放送の受像機の設置も予定されています。

現在視聴可能な衛星放送チャンネル一覧は図書館ＨＰ上に掲載されています。

URL http:// www.lib.u-ryukyu.ac.jp/

◉留学生専用デスクトップパソコン

e-mailやインターネット利用のためのパソコンを４台設置しており、英語・欧文・ハングル・中国語などにも対応しています。

◉留学生用館内貸出ノートブックパソコン

留学生用として館内貸出用のノートブックパソコンを３台用意しております。研究・プライベートに幅広くご活用ください。

e-mail等が利用可能な場所として、新館２階及び３階閲覧室入口に情報コンセントを用意していますので、指定場所でご使用ください（閲覧席での使用はできませんのでご注意ください）。

開館時間中利用が可能です。利用希望の留学生は２階カウンターまで。

国際資料室

本館の２階新館（正面玄関から入って左奥）

ＵＮ資料(国際連合 United Nations の各機関から発行される出版物)、ＥＵ資料(欧州連合 European Union 各機関の公式資料や出版物の他に駐日欧州委員会広報部から発行される資料等)、ＯＥＣＤ資料(国際機関の一つで、経済協力開発機構 Organization for Economic Cooperation and Development の広範な活動や研究成果である出版物)、ＵＮＥＳＣＯ資料(国連の専門機関の一つである国連教育科学文化機関United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization 発行資料)のほか、アジア関係資料、アメリカ研究図書等が配架されています。

図書館の開館中はいつでも利用でき、一般にも広く公開していますが、資料は一部しかないため、閲覧のみで貸出は行っていません。必要な方は２階カウンター前のコイン式コピー機をご利用ください。

国際資料は毎日郵送で届いています。琉球大学は国際機関のアップデイトなオリジナル資料が手に取って利用できる恵まれた環境にあります。大いに活用してください。

なお、ＷＨＯ（世界保健機構）関係の資料は医学部分館に、ＦＡＯ（世界食糧機構）関係資料は農学部図書室に所蔵しています。

また、このコーナーには、インターネット経由で国際資料を検索するためのパソコンを１台設置していますのでご活用ください。

あなたもサーチャー

～情報検索に強くなるために～　新聞記事編

館内では、次の国内新聞記事をＣＤ－ＲＯＭで検索できます。
１～３は、ＤＬＳ（Digital Library System）で、４は専用ＰＣでの利用になります。

1．沖縄タイムス　1989～1997の全文記事を、見出し及び紙面画像で検索できます。
2．毎日新聞　1993～1998の記事を見出しや本文記事から検索できます。
3．日本経済新聞　1990～1998の記事を見出しや本文記事、シソーラスから検索ができます。
4．朝日新聞　1985～現在までの記事を見出しや本文記事から検索ができます。

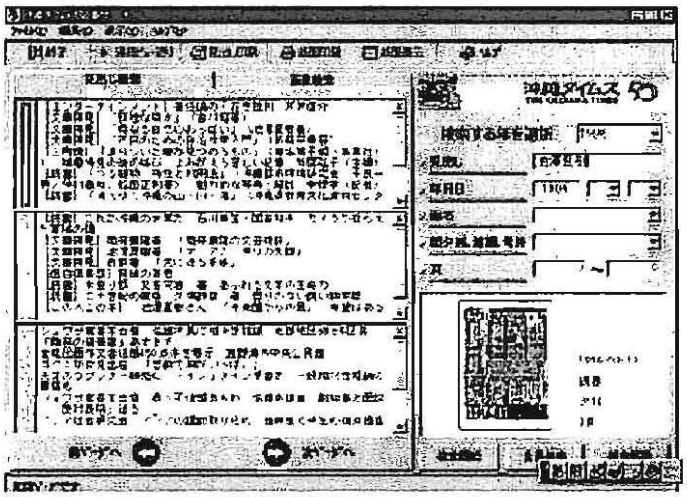
この号では、「沖縄タイムス」と「朝日新聞」についてご紹介します。

1．沖縄タイムス記事サーチ

「ＤＬＳ」のショートカット（アイコン）をクリックして
表示されるＣＤ－ＲＯＭメニューから「沖縄タイムス」を選択します。

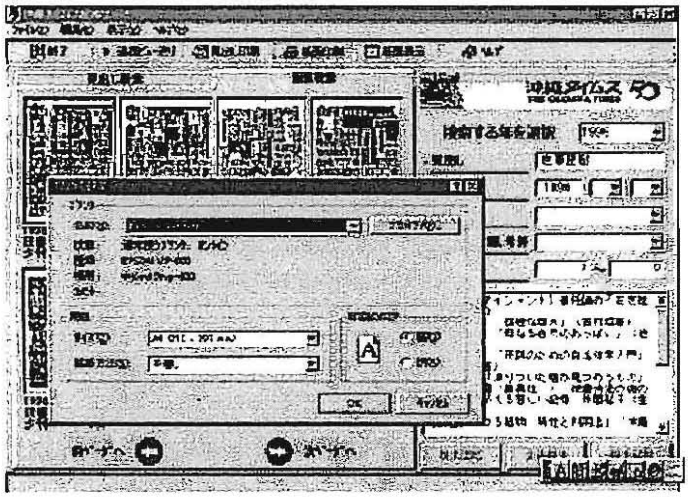
沖縄タイムスの　1989-1997　の全文記事が検索できます。

検索を始める前に「画像検索」か「見出し検索」かを選びクリックしてください。



検索条件入力

検索したい年度を選択したのち、
・「見出し」の検索語を入力するか
・月日検索、ジャンル検索などの検索機能を使用して画像イメージを表示することができます。

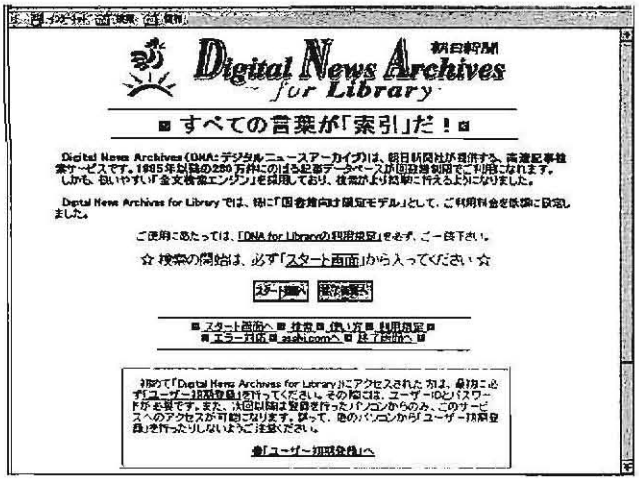


データの印刷・保存

紙面表示を部分的に拡大したり、印刷したり、紙面データをWord,Excelのデータとして活用することなどができます。

2．朝日新聞全文検索:DNA

※　この検索は、参考カウンターでお申し込みください。



ＤＮＡ(Digital News Archives)は、朝日新聞の高速記事検索サービスです。

1985年以降最新データまで230万件以上の記事データベースを利用できます。

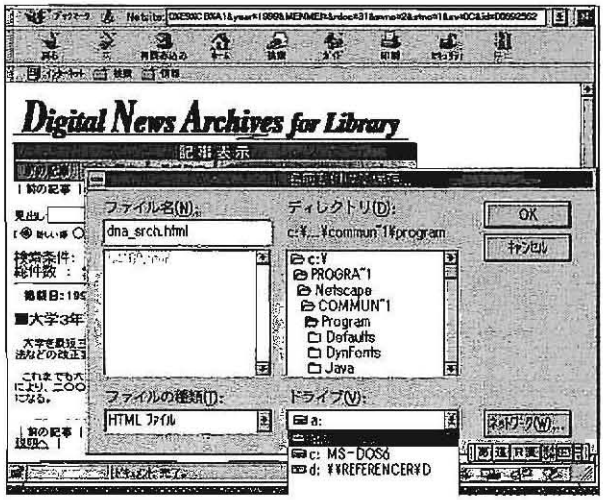
各都道府県の地方版や、ニュース週刊誌「ＡＥＲＡ」記事も検索対象となります。

検索条件入力

日本語入力モードの切り替えは

[Alt]＋[半角／全角] キーを押す。

・検索条件入力後、[検索実行] をクリックするとヒット件数と最初の10件が一覧表示されます。



データの印刷・保存

・日付データをクリックすると記事の内容が表示される記事のCopyが必要な場合は、「ファイル」メニューから印刷できます。

・記事の保存が必要な場合は、「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」を選択するドライブを[a:FD]に切り替え、ファイル名を付けて保存することができます。

琉球大学附属図書館のあゆみ　－シリーズ⑥－

（32巻１号より続く）

豊　平　朝　美

1980年代②

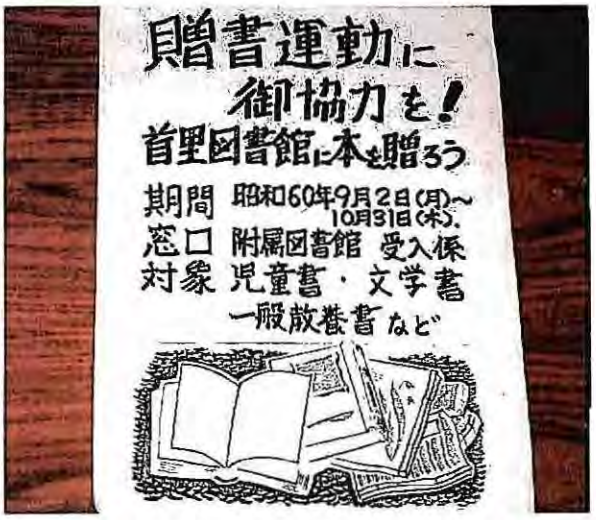
◎首里市民へ図書を送る運動

昭和50年５月、首里キャンパスから現在の千原キャンパスへ、第１陣として農学部附属農場が移転し、その後、次々と各部局が移転した。昭和59年10月、附属病院の与儀キャンパス（現在の県立那覇病院所在地）からの移転を最後に、移転事業が完了した。その「移転完了記念事業」の一環として、旧キャンパス時代にお世話になった首里周辺の地域住民への感謝のしるしとして、那覇市立首里図書館へ図書を贈る「贈書運動」を実施することになった。「贈書運動」は首里文化祭（11月３日）までに出来るだけ多くの図書を贈ろうという計画で、昭和60年９月２日より10月31日までの２ヶ月にわたり、附属図書館の受入係を受入窓口にして、学内の教職員、同窓会に図書の寄贈を呼びかけた。事務局の運動と、教職員、卒業生の首里キャンパスへの懐旧の念とが重なってか、事務局、学部事務室、同窓会、図書館等195名から児童書を主体に文学書、一般教養書、沖縄関係図書等３千余冊の様々な多数の資料が寄贈された。

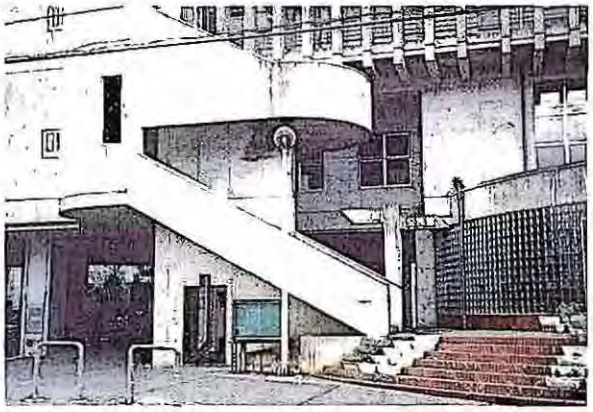
同年10月31日に那覇市立首里図書館で目録贈呈式が執り行われ、東江学長（当時）より寄贈図書の目録が那覇市教育委員会教育長に手渡された。これに対し、那覇市教育委員会教育長、地域住民代表らが、「地域の文化の向上のために役立てたい」とお礼の言葉を述べた。

「移転完了記念事業」は7項目からなり、昭和60年5月22日の開学記念日から昭和61年5月22日までの1年間を「琉球大学移転完了記念年」として、新キャンパスでの「首里の杜」の造成や附属図書館の「志喜屋記念図書館」の呼称決定等を含めた諸事業がその間に実施された。

（「琉球大学移転完了記念事業趣意書」、「琉球大学学報第209号」及び1985年11月１日　「琉球新報」記事参照）



贈書運動のポスター



那覇市立首里図書館

◎Kerr（カー）文庫

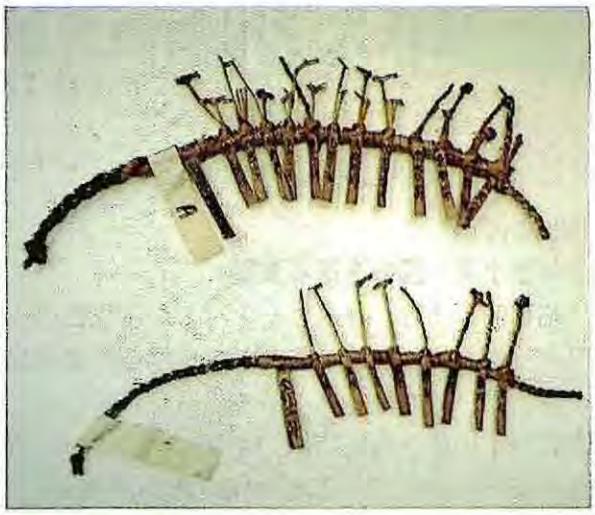
附属図書館が、開学以来収集してきた沖縄関係資料の中に個人等の寄贈による十数点のコレクションがある。入手の経過等について「びぶりお」で一部紹介してきたが、その他の主要コレクションに Kerr文庫 がある。これは沖縄研究で有名な米国ペンシルベニア州生まれの歴史学者ジョージ・H・カー（George H. Kerr）氏の蔵書の一部であり、琉球大学開学後の1955（昭和30）年から死去する直前の昭和62年（８月28日逝去）にわたって、継続的に寄贈された資料の中から沖縄関係資料だけを抜き出したものである。カー氏の著書「Ryukyu:kingdom and

province before 1945」の訳本が「琉球の歴史」として 1956年に米国民政府より出版され、県内各市町村に無償配布された。民政府から図書館に搬入、図書館で保管していた約2,500部の「琉球の歴史」は、図書館はその有効利用のため、琉球大学の職員と学生希望者に一部づつ配本するようにしたようである。(「沖縄大百科事典」所収の宮城悦二郎氏執筆論文及び附属図書館蔵「昭和32年11月 3 日付け図書館より学長宛文書」参照)。

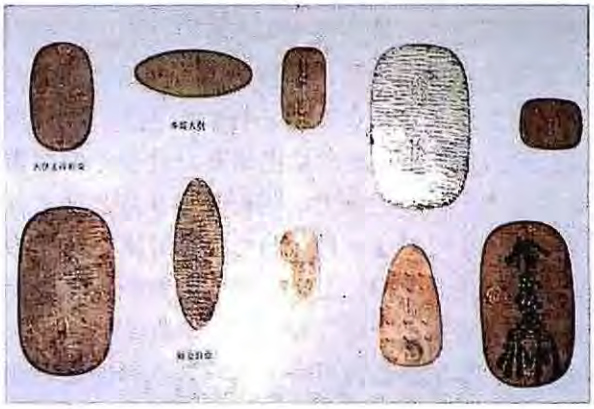
Kerr文庫の中には図書資料、写真集、切り抜き、スライド、マイクロフイルム等があり、珍しいものに「わら算」の雛型がある。このわら算について、カー氏の説明文(英文)がある。

わら算の雛型は八重山竹富島の博物収集家上勢頭亨(うえせど とうる)氏がカー氏のため、一式作成したようである。わら算とは琉球王府時代の文字を知らない村人の記録法であり、村人が文字と算数のかわりに結縄法によって使用した。その後、首里王府への報告書をまとめるため、村役人によって使用されたが、明治12年(1879)の沖縄の廃藩置県後は、初等教育の普及と共に、廃れていったこと等が記されている。わら算は種々の結び方で判別する方法をとり、租税の徴収記録、儀礼時における金品の授受などに用いたとあり、カー氏は雛型のわら算についてその意味を一つ一つ詳しく説明している。(「沖縄大百科事典」及び岡本淳子氏訳「南琉球諸島(先島)において用いられた結縄式記録法」:「びぶりお」19巻 4 号所収参照)

カー氏のその他の寄贈の中で、骨董品的な資料として、1983(昭和58)年11月23日に本学へ送付された10枚の江戸時代の小判(複製品らしい)がある。カー氏は日本経済史を学ぶ学生にとって関心があるのではないかということで琉大に寄贈したようである。カー氏の他の書簡によれば、カー氏は沖縄県立博物館にも狩野探幽や谷文晁(江戸時代の画家)の名画等を寄贈している。また、カー氏関係資料は沖縄県公文書館にも所蔵されている。



藁算の雛型



江戸時代の小判

○カー氏の尽力によるハミルトン図書館蔵書の寄贈

収容スペースの関係から、処分寸前だったハワイ大学のハミルトン図書館の蔵書がカー氏の尽力により、琉大に寄贈されることになった。カー氏の呼びかけに応じたハワイの沖縄県人会の献身的な協力があって実現されたが、瀬名波榮喜図書館長(現名桜大学副学長)とカー氏との密接な連絡・交渉の中で、昭和60年 2 月13日、5,000余冊の膨大な資料が本学に送られてきた。江戸時代から昭和期に至るこの資料は既に一部が虫害に侵されていたことから、到着前に24時間の薫蒸処理が施された。ハワイ県人会の意向も踏まえ本学の他に、県内の沖縄国際大学、沖縄県立図書館、那覇市立図書館にも琉大を通じて配布された。琉大に寄贈された2,322冊の中で、和装本の古文書には、最も古いものは1635年の「法眼の生涯と教え」で、その他に「高知名所図絵」等がある。数量的には少ないが貴重

な琉球箏曲工工四(琉球箏曲の譜本)等沖縄関係資料も含まれている。(「びぶりお」18巻1号および「琉球新報」記事1985.2.15収載参照)

George H.Kerr (1911.11～1987.8)
沖縄タイムス社提供

○カー氏と本土・沖縄との関わり

それではカー氏が、どうしてこの沖縄に終生関心を寄せたのだろうか。それを示すカー氏の書簡がある。

1983(昭和58)年12月5日に、ハワイのホノルルからカー氏が本学へ来学したが、その日の夕方の懇親会で、当時の宮城学長及び瀬名波館長等と同席していた平良恵仁図書館事務長がカー氏に「どうして貴殿は琉球に関心を持たれたのですか」という質問に端を発する。その時、カー氏は明解な回答が出来なかったようで、1984(昭和59)年2月20日付のカー氏の英文書簡に、平良事務長宛の返事が記されている。その書簡には、カー氏自身と沖縄や日本本土との関わりについて回顧的に書かれている。以下は書簡の概略である。

カー氏が終生東アジアに関心を持つようになったのは、1929年にヴアージニアのリッチモンド大学1年生の時に、古代史の授業を受け、カー氏の隣の席の中国人のリーという学生と親友になった事から始まる。教授が古代ギリシャ、古代ローマ等について講義している時、「この西洋史の卓越した時代に中国では何が起きていたのか」というカー氏の質問に、教授は答えることが出来なかったようである。その時、カー氏は専門領域として「東洋史」をやろうと決心した。1931年、大学を変更して、フロリダのロリンズ大学に行ったが、そこでも教授達はアジアについては何も知らなかった。卒業した時(3年間の学部課程終了後の1932年)、カー氏の友人達は大部分はヨーロッパへ行ったが、カー氏はアジアへ行こうと決心した。折しも経済恐慌の最中で、カー氏の家族も相当打撃を受けていた。カー氏は生活費の安かったフロリダへ帰り、ふた冬を過ごした。幸いな事に、退職した著名なイエール大学の教授の私文庫に接する機会があった。教授は長い間、中国で過ごし、中国、日本、インドに関する貴重な図書のコレクションを持っていた。そこでカー氏は2年過ごし、読書に明け暮れた。

カー氏はイェンチェン大学(北京)での奨学金を受けることになり、(中国への)出発の準備をした。途中、活火山を見るためハワイに2週間立ち寄る予定で、ハワイ、横浜経由で中国行きの切符を買った。サンフランシスコからハワイへ向かう船の中で、多数のハワイ大学の若い教師に出合ったが、カー氏が彼等にハワイ島についての質問をしたら、興味ある話をしてくれた。ホノルルに着くと、ハワイ大学で「太平洋史」と「アジア史」の内で提供されているすべての科目を受けようと決心した。ハワイ大学では沖縄から来た玉城という学生と友人になり彼を通して幾人かの沖縄学生と知り合うようになった。そして玉城氏の家族から彼に届けられる黒砂糖や珍味等をカー氏は頂いたが、これが最初の琉球との出会いになった。中国へ行く途中、日本を経由してそこで夏を過ごそうと思った。ハワイにいた時、著名な蝋山政道博士(政治学者で近衛文麿公の政策ブレーン)の講義を受けたことがあり、蝋山夫妻はカー氏を軽井沢の自宅に招待した。蝋山博士はある意味ではカー氏の恩人であり、博士は多くの有名な知名士を紹介してくれた。例えば近衛公や松本重治博士その他の人々で、カー氏は直ぐに自分がとても幸運な若者であることがわかった。夏の終わりに、蝋山夫妻はカー氏にここで秋、冬を過ごし、日本の一年の四季を見るように勧めた。それで二年を過ごし、東京を中心に本州、四国、九州を旅行した。カー氏が日本の美術工芸品の伝統的な発達に関心を持つまでには、さほど時間はか

からなかった。そこで日本の美術家や工芸家を支えている社会生活や保護奨励についての多くの情報を収集し始めた。カー氏は（その時は）北京に行く計画を断念していた。

その頃の2年間、カー氏は沖縄のことについてはほとんど何も知らなかった。カー氏は早稲田大学で多数の中国人や台湾人学生と知り合った。カー氏は早稲田大学第二高等学校英語会話会で金曜日の午後英会話を教えていた。早稲田で教えていたアメリカ人の友人が台北の官立学校(台北高等商業学校)で勤務することになり、東京を離れる事になった(＊1)。しかし、数カ月後、彼は病気になりアメリカ本国へ帰国しなければならなくなった。そこでその友人はカー氏に台北での彼の残務期間を引き継ぐよう頼んだ。それで、1937年に日中戦争が勃発した丁度その時、台北へ行き、3年間過ごしたが、その間いつでも日本本土へ帰ることが出来た。

台湾で、沖縄の人達と知り合いになり、琉球に関心を持ち始めた。カー氏は教え子の中に、川平清(朝清)（戦後の初代沖縄放送協会長）のような若い有能な人物がいたことを誇りに思っていた。彼等は休暇に那覇へ帰省し、台湾へ戻る時、面白い葉書や写真をカー氏に持ってきた。2度程、那覇経由で鹿児島への旅行の申請をしたが、中国での戦争と日本の国家主義の台頭により、外国人旅行者はスパイと見做されて、沖縄への訪問は許されなかった。台北での教師（英語）としての期間中、琉球史、交易史や人類学に特に関心を寄せていた。著名な金関丈夫博士(＊2)や小葉田惇教授(両氏共当時台北帝国大学教授)とも知り合いになった。

その頃には、カー氏は日本の美術工芸品に影響を及ぼした社会状況やその伝統についての論文（英文）をほぼ書き終えていた。カー氏は日本語を少し話せたが、書いたり、読んだりするのは不得意だった。

ジョージ・サンソム(英国の日本文化研究者1883-1965)がコロンビア大学で教えることになった時、カー氏は大学院での研究を進めるため、コロンビア大学へ行く決心をした。(サンソム卿はカー氏が東京に住んでいる頃、カー氏を歓待してくれた人である。)

帰米前に朝鮮経由でやっと北京へ行き、1940年の夏、友人の中国人宅で過ごした。それは大きな収穫だった。

コロンビア大学で日本語や中国語と一緒に出来るだけ多くの歴史の授業を受けた。1941年の夏、ノースカロライナの山中にあるカー氏の別荘で、友人のポール・ブルームを招待して、日本語の勉強に専念した。そしてロサンゼルスから若い日本人学生にその支援のため来てもらった。カー氏達は18才のコロンビア大学の学生にも参加するよう声をかけた。その男はドナルド・キーン（後の日本文学研究者1922-)で、既に中国語を受講していたが、日本語の勉強を望んでいた学生であった。遠いノースカロライナの別荘で、キーンは初めて日本語を勉強することになった。真珠湾攻撃の後、カー氏はまもなくコロンビア大学の大学院を卒業して、ワシントンへ行き、アメリカ合衆国陸軍省の民間人の台湾専門家になった。その間、カー氏は台湾に3年住んで、日本人の官吏や台湾人とも親しくなった。

ニミッツ提督は(米国が)台湾を占領して、東南アジアや南方諸島で行動している日本軍を分断することを提案したが、台湾を迂回して、代わりに沖縄を占領することが決定された。カー氏は重慶のアメリカ大使館付き海軍武官として中国へ派遣された。1945年9月初め、日本は横浜で降伏調印した。10月に台湾の正式な返還調停に出席するため、カー氏はアメリカ陸軍顧問団と一緒に台湾へやってきた。その台北で以前親しかった日本人と台湾人の旧交を温めた。3ヶ月間、カー氏が海軍の代表者だった。それから海軍を離れたが、アメリカの外交部に加わり、アメリカ大使館を再開するため副領事として、台湾へ戻るようにいわれた。中国共産党に対抗して台湾人が1947年3月19日に立ち上がるまでの間、カー氏は（台湾へ）残った。この頃は日本人にとって住居を捨て、日本や沖縄へ帰らなければならない大変な混乱と難儀な時期であった。カー氏は戦争で荒廃した沖縄へ沖縄人を送還する特別な問題に深く関っていることに気付いた。とりわけ、沖縄県人会とともに、その中にいた川平朝申氏(川平朝清氏の実兄)や南風原博士(＊3)等と一緒に働いた。当時の悲しい沖縄問題のメモを将来のためにタイプして、琉大

へ送ろうと思った。

1946年1月、台湾からワシントンへの帰途、沖縄に1週間泊まったことがある。これがカー氏が最初に見た沖縄である。

1947年4月、カー氏は外交部を辞め、日本や台湾に関する膨大なコレクションをもってアメリカへ帰ってきた（＊4)。このコレクションは台北の製紙工場から回収したものや日本人の友人が余儀なく台湾を離れる時にその友人から購入したものである。(これらの多数のものが後にワシントン大学の極東研究所によって買い上げられ、そして台湾関係のおよそ2000冊がカリフォルニア大学の東アジア図書館に現在所蔵されている。)

ワシントン大学で2年間、スタンフォード大学史学科で1年間講義し、それからスタンフォード大学のフーバー研究所へ移った。(カリフォルニア大学バークレイ校の客員講師として1953年から1954年まで「沖縄史」を講義した。これがアメリカで提供された最初の「沖縄史」講義であるとカー氏は確信している。

1951年に、フーバー研究所の所長（Harold Fisher)が「調査研究のためのテーマ」を職員に提示するようカー氏に依頼した。カー氏はアメリカ合衆国と深く関わっている地域で、台湾や沖縄に関して18項目を取り上げた。1952年1月、Pacific Science Board of the National Research Council(ワシントン D.C.にある合衆国調査評議会・太平洋学術局)でハロルド・クーリッジ博士はマードック博士とカー氏を招待して、米国民政府の琉球民政官ジェームス・ルイス准将とともに会議に加わるよう伝えた。1週間の長い会議で、ルイス准将は、マードック博士とカー氏が沖縄の歴史、琉球人と日本本土との関係を話しているのを聞いて、それが琉球をアメリカの管理のもとにおく新しい平和条約(対日平和条約)に沖縄人が異議を唱えた場合の解決に光明(糸口)を与えるように思われて、ルイス准将は、二人の会話に関心を持ち始めた。彼はカー氏に沖縄歴史の概説を準備する意志があるかどうかを尋ねた。カー氏は3つの条件を受託の条件として同意した。1つはカー氏が自由に宮古、八重山へ旅行できること、2つは資料を参照するため日本の図書館や個人の文庫を調査出来ること、3つは教育担当の米国民政府職員に如何なる場合でも従属しないことであった。カー氏の条件は受託され、カー氏はその年に何度も沖縄や日本本土へ帰ってきた。(この調査報告は前述のように「Ryukyu:Kingdom and Province before 1945」)。

カー氏のこの時の調査報告から、加筆してその後に「沖縄:島人たちの歴史」(1958年刊行)、そして続いて、書誌的調査として琉球大学から「琉球文献目録」が出版された。

1952年、カー氏は琉球を訪問中に、どこでも親切にされて、深く感銘を受け、感動した。沖縄戦で破壊と恐怖に落とし入れ、外国の軍事占領で重圧をかけてきたアメリカ人に対し琉球の住民は憎しみを持つのが普通であるにも拘らず、カー氏はどこでも友情と歓迎を受けた。再建に向けて意欲的に取り組んでいる沖縄県民の姿に驚き、その事がカー氏には沖縄の住民に対する限り無い称賛の思いとして残っている。カー氏はその感謝のしるしとして微力ではあるが、出来る限りの援助をしてきたと述べている。その事は、当時の琉球大学や次世代の若者に対する支援の気持も含んでいる。(不十分かも知れないが)、琉球の事情に関わった物語の記録として残しておきたく筆を執ったとカー氏は述べている。

以上がカー氏の書簡(英文)の概略であるが、訳語等の字句については瀬名波教授よりご教示頂いた。

○カー氏への感謝状

瀬名波教授は、カー氏のことについて、沖縄の歴史を総合的に研究し、それを英文で全世界に紹介した人で、これまでのカー氏の功績に対し、琉大の東江康治学長、太田昌秀法文学部長、瀬名波館長等（当時）は、沖縄タイムス社にカー氏への「沖縄タイムス賞」の贈呈を働きかけ、同社から「沖縄タイムス賞」の感謝状が贈呈されたと述べている。

○カー氏と白花デイゴ

カー氏に関する美談であるが、琉大を訪問中、図書館の隣にある「首里の杜」に外国人留学生のため、各国の樹木を植えたほうが良いとカー氏は瀬名波館長に提言されたようである。その

意味もあってか、カー氏はハワイに帰郷後、琉大図書館の周辺に植えて欲しいと、沖縄から留学していた新崎康博氏に、ハワイ産の「白花デイゴ」の種子を託したようである。新崎氏が沖縄に帰られた時に、それを新崎氏の義兄にあたる新井裕丈氏（初代図書館専門員）が預ってきて、瀬名波館長に渡した。瀬名波館長は農学部林学科の幸喜善福助教授(当時森林工学)にその栽培を頼んだ。幸喜助教授は専門分野が違うということで、附属演習林の新里孝和教官（現附属演習林助教授）に依頼し、新里教官は安里昌弘技官と共にこれを発芽させ、育成した。安里技官によれば、数粒の種子は一部は、苗畑と呼ばれていた現在の「都市林研究園」（農学部附属演習林施設)で順調に生育しているとの事だった。その後、安里技官に実物の樹木も見せて頂いたが、花は既に散っていた。この珍しい「白花デイゴ」は、4月中旬から5月中旬頃まで咲いているが、県内で見られる深紅の花のデイゴ(県花)に比べて、余り目立たないようである。挿木で増殖が可能という事なので、いつの日にか図書館の周辺にこの白い花の咲くデイゴが咲き誇るようになれば、カー氏の気持に報いることになるのだが。

白花デイゴのある「都市林研究園」は医学部体育館の下側に位置している。そこでは四季折々の花々が咲き誇っているようで、途中に高さ12メートルの滝もあり、散策が楽しめる場所である(平成5年10月「琉球大学学報」第304号参照)。

白花デイゴの樹木

都市林研究園にある滝

琉球大学の草創期から琉球大学の教育研究の発展に尽力したカー氏は、終生沖縄を愛し、沖縄・八重山などの研究に情熱を寄せた外国人である。米国において、沖縄からの留学生の世話等もして、多数の人々から慕われていたが、昭和62年8月28日に逝去した。同年9月20日に那覇市の八汐荘で、生前のカー氏と親交のあった40人余の学者達が集いカー氏を偲んだ。

＊1.宮城悦二郎氏（前沖縄県公文書館長）からカー氏が台湾の高等商業高校に務めていた事をご教示頂いた。又、台北帝国大学卒業後、金関教授（人類学、考古学）等のもとで、助手を務めたこともある大鶴正満氏から、昭和10年の「台湾総督府及所属官署職員録」を見せて頂き、その中に「台北高等商業学校」の名前が記載されていて、カー氏の前任者と思われる雇教師のゼー・ゼー・コーイの名があった。

＊2.大鶴教授からご教示頂いた金関丈夫著の「琉球民俗誌」に、「カーの思い出」という項目があり、カー氏は戦争中、アメリカ随一の台湾通で、台湾爆撃の作戦の枢機にいて、自ら爆撃機に乗っていたという。瀬名波教授によれば、カー氏は台湾で飛行機事故で落ちたことがあっ

たが、現地の住民に救われ、九死に一生を得たという。金関教授はカー氏の印象をカー氏が日本文化史に関心があり、アメリカ人のわりには貧相だったが、物を見る眼は普通の日本人より観賞力が優れていたと述べている。

＊3.「琉球民俗誌」によると医学博士南風原朝保氏は「質問本草」(琉球諸島等に産する草木を中国の医者・本草家からその名称・薬効などをたずねたもので1837年に刊行)を南風原博士が東京の書店から大金を投じて入手したが、本学が必要としていることを聞いてそれを即座に贈ったという。南風原博士の死後、御遺族から昭和59年3月、本学保健学部図書室に「台湾医学雑誌」等800点の蔵書が寄贈された。

＊4.「琉球民俗誌」によると終戦後、日本人が台湾からの引き揚げの際に、持ち帰ることを許されなかった先祖代々の重宝を台湾で手離さざるを得なかったため、その品々が台湾の市場に安価で出回っていたと記されている。アメリカ副領事だったカー氏は金関教授、南風原博士、台湾人等と共に、それらを収集して、月1回各家で自慢会をやったようである。1949年台湾を引揚げることになった金関教授はたくさんの書籍と陶器のコレクションの処分に困り、カー氏のかねてからの希望を容れて、陶器はカー氏に譲り渡すことにした。数日かけての荷造の後、領事館の職員がきて、トラックに乗せて、それを一度で飛行機で、本国へ運んだ。カー氏は方々でこの金関教授のコレクションの展示会を開いたようである。そのコレクションはカリフォルニア大学が買取り、カー氏の教授への支払は完納した。

◎「国連寄託図書館」誘致の実現

1985年7月24日に「国連寄託図書館」誘致のため、瀬名波栄喜図書館長が国連本部を訪問した。国連寄託図書館は原則として一国二館以内ということであったが、当時、日本はそれを上回って設置されており、沖縄での誘致が大変困難だったようである。渡米前に東京の国連広報センターを訪問したが、担当者から設置は不可能だと云われ、失意の内に同広報センターを退館しようとした時、一女性に呼び止められ、励まされたそうである。その女性が元医学部部長茨木教授の実妹坊下隆子事務官であった。国連で、瀬名波館長は小張本学元附属病院長の旧友にあたる黒田大使に、小張教授の紹介状を携さえて面会した。黒田大使のご尽力と外務省国連局関係者の協力で異例の早さで1986年4月7日に設置許可された。瀬名波館長の並々成らぬ折衝・奔走により、本学に国連寄託図書館が設置された。現在、UN資料として継続的に送付され、国際資料室に配架されている。(「びぶりお」26巻3号参照)

◎沖縄戦時中の米軍機密資料の入手

瀬名波館長が国連からの帰りに、日本関係資料があるということで米国のメリーランド大学を訪問して、入手したのが、1945年の沖縄戦を記載した米国陸軍第十軍のG-2(情報参謀部)作成のIntelligence Monographという標題の米軍の情報資料である。

日本軍の陣地や防衛施設、首里城下にあった牛島第32軍司令官の指令室や沖縄本島、先島諸島等沖縄全島の軍事記録、太田実海軍少将の司令部のあった地下壕地図、日本軍捕虜の尋問・供述、空中写真に標記された病院施設、学校等、攻撃の前に周到な計画をしていたことが伺える。戦時中の沖縄の情勢を知る貴重な資料である。本学の所蔵枚数は約800余頁である。

尚、この資料は沖縄県平和推進課が既に入手しており、同課の他に沖縄県公文書館がその複製を保存している。宮城悦二郎公文書館館長(当時)によれば、これをマイクロフイルム化して、利用の便宜を図っているとの事である。(1999年3月11日付け「沖縄タイムス」収載記事より参照)

Intelligence Monograph

つづく

(とよひら ともみ：図書館専門員)

沖縄関係資料新着案内

1998年2月～1999年4月

0類　総　　記

1．ながれ／與那國青年會編 復刻版［出版地不明］:［出版者不明］, 1997.12 K054-NA
2．激動の半世紀：沖縄タイムス社50年史／沖縄　タイムス社編　那覇：沖縄タイムス社, 1998.12　K070.2-OK
3．組踊写本の研究／當間一郎著　東京：第一書房, 1999.3　K097.7-TO

1類　哲　　学

1．天使の悟り：神の子 人間の本質は天使である神とは治癒力なり／城間創神著　与那原町（沖縄県）：神が世, 南風原町（沖縄県）：那覇出版社（発売), 1998.11　K147-SH
2．御万人（ウマンチュ）ぬ心（ククル）：宇宙の神秘／比嘉清徳著　那覇：比嘉清徳, 1999.1　K169-HI
3．神ぬ歌／比嘉善子, 比嘉清徳共著, 第二巻　那覇：比嘉清徳, 1999.1　K169-HI
4．琉球妙心寺派末寺禅宗史略伝／岡本祐山著　糸満：岡本祐山, 1993.10　K188.8-OK

2類　歴　　史

1．銘刈古墓群／那覇市教育委員会文化課編　那覇：那覇市教育委員会, 1998.3（那覇市文化財調査報告書, 39）　K200.2-OK
2．琉球･中国交渉史に関するシンポジウム論文集／沖縄県文化振興会編, 第四回　那覇：沖縄県教育委員会, 1999.3　K200.4-DA
3．神山文庫目録／沖縄県文化振興会編　那覇：沖縄県教育委員会, 1999.3（沖縄県史研究叢書, 4）　K200.8-OK
4．沖縄毎日新聞見出集：1909年（明治42）2月～1910年（明治43）12月／沖縄県文化振興会編　那覇：沖縄県教育委員会, 1999.2（沖縄県史研究叢書, 5）　K200.8-OK
5．青空教室からの出発：戦後校舎のうつり変わり／沖縄県文化振興会編　那覇：沖縄県那覇市教育委員会, 1999.1（沖縄県史ビジュアル版, 3 戦後2）　K200.8-OK
6．ペリーがやってきた：19世紀にやってきた異国人たち／沖縄県文化振興会編　那覇：沖縄県教育委員会, 1999.3（沖縄県史ビジュアル版, 4 近世1）　K200.8-OK
7．知っておきたい沖縄／歴史教育者協議会編　東京：青木書店, 1998.7　K201-RE
8．中国与琉球／謝必震著　福州：廈門大学出版社, 1996.12　K201-SH
9．染織関係近代新聞資料／沖縄県文化振興会編, 技術1　那覇：沖縄県教育委員会, 1997.3（沖縄県史資料編5）　K219.9-OK
10. 暦で変わろう！：与勝のあゆみと古代文学／島袋善吉, 吉浜節子共著　与那城町（沖縄県）：島袋善吉･吉浜節子, 1998.11　K223-SH
11. 写真と年表に見る糸満市の現代の歩み：1945年～1991年／糸満市史編集委員会編　糸満：糸満市役所, 1993.3（糸満市史別巻 写真資料）　K232-IT
12. 白保-歴史・民俗散策：白保とその関連地域／崎原恒新著　沖縄市：崎原恒新, 1999. 3　K251-SA
13. 旧記雑録拾遺伊地知季安著作史資料集／鹿児島県歴史資料センター黎明館編, 2　鹿児島：鹿児島県, 1999.1（鹿児島県史料）　K270-KA
14. 沖縄人国記／琉球新報社編　那覇：琉球新報社, 1999.3　K280.3-OH
15. 七転八起：宮良當壮博士生誕百年記念誌／石垣繁, 崎山直編　石垣：宮良當壮博士生誕百年記念事業期成会, 1998.11　K289-MI
16. 志喜屋孝信伝：志喜屋孝信先生遺徳顕彰事業期成会／志喜屋孝信伝編集委員会編［那覇］：志喜屋孝信先生遺徳顕彰事業期成会, 1993.7　K289-SH
17. アルセスト号朝鮮･琉球航海記／J.マクロード著;大浜信泉訳　宜野湾：榕樹書林, 1999.3　K290.99-MA

18. 都屋誌：字創設五十周年／読谷村字都屋字誌編集委員会編　読谷村(沖縄県)：読谷村字都屋公民館，1998.10　K292.6-YO

3類　社会科学

1．沖縄からのメッセージ事業報告書：基地と平和と文化を考える／沖縄クリエイティブセンター編　那覇：沖縄県，1998.3　K302-OK
2．「沖縄からのメッセージ事業」講演記録集　那覇：沖縄県，1998.3　K302-OK
3．見て観て考える図説琉球･沖縄／新城俊昭著　中城村（沖縄県）：むぎ社，1999.1（若太陽文庫，4）　K304-WA
4．公文類聚目録／国立公文書館編，第十四　東京：国立公文書館，1999.1　K310.9-KO
5．戦いすんで日が昇る／仲里嘉彦監修，下巻　浦添：春夏秋冬社，1998.3　K314.8-TA
6．愛すかいばどぅ元気まい出でぃす：健康ふれあいのひららをめざして／伊志嶺亮著　平良：伊志嶺アキラ後援会，1997.7　K318.2-IS
7．沖縄県町村会五十年のあゆみ／沖縄県町村会編　那覇：沖縄県町村会，1998.11　K318.3-OK
8．ドキュメント沖縄･反戦地主［映像資料］［東京］：［小川町シネマクラブ］，1996　K319-DO
9．沖縄から安保が見える：公開審理･特措法改悪・名護へリポート［映像資料］東京：小川町シネマクラブ，1997（沖縄シリーズ，3）　K319-OK
10. 名護：海上基地はいらない［映像資料］東京：小川町シネマクラブ，1998（沖縄シリーズ，4）　K319-OK
11. 沖縄市と基地／沖縄市役所企画部基地政策課編　沖縄市：沖縄市役所，1998.3　K319-OK
12. 日本アルゼンチン交流史：はるかな友と100年／日本アルゼンチン交流史編集委員会編　東京：日本アルゼンチン協会，1998.12　K319.02-NI
13. 祈りは、五線譜の上で、未来をめざす：おきなわ発・平和トライアングルinながさき／沖縄市企画部平和振興課編　沖縄市：沖縄市役所，1996.12（沖縄市親子平和大使交流報告書，第6号）　K319.8-OK
14. 出合い 感動 発見 出発：おきなわ発・平和トライアングルinひろしま／沖縄市企画部平和振興課編　沖縄市：沖縄市役所，1997.12（沖縄市親子平和大使交流報告書，第7号）　K319.8-OK
15. 浦添に大軍港がやってくる：那覇軍港の「浦添移設」を考える／沖縄県平和委員会編　南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1999.1　K319.8-OK
16. 沖縄県特定地域中小企業振興計画／沖縄県特定地域中小企業振興対策協議会編　那覇：沖縄県，1987.9　K335.35-OK
17. クレサラ白書／クレサラ白書編集委員会編，1998年　那覇：第18回全国クレジット･サラ金被害者交流集　会沖縄実行委員会，1998.10　K338.7-KU
18. 激動の沖縄を生きた人びと：ライフコースのコーホート分析／安藤由美著　東京：早稲田大学人間総合研究琉センター，1998.11　K365.5-AN
19. 糸満市女性に関する市民の意識と実態調査報告書／糸満市企画部女性・平和推進課編　糸満：糸満市，1998.7　K367-IT
20. 日本老年社会科学会第40回大会報告要旨集／崎原盛造大会長　西原町（沖縄県）：崎原盛造，1998.6　K369.26-NI
21. 親子で学ぶ沖縄の戦跡と基地／沖縄県平和委員会編　南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1997.5　K369.3-OK
22. ともしび／諸喜田芳昌著　南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1995.11　K370.4-SH
23. 寄稿集ゆんたく／田里松吉著　南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1994.12　K370.4-TA
24. 効く教育効かない教育：なぜ子ども達は荒れるのか、その原因と適切な処方箋／金城盛作著　那覇：閣文社，1999.1　K371.45-KI
25. 未来を拓く子どもの教育：琉大附小･校長の体験を通して／中村哲雄著　那覇：国際印刷，1999.2　K375-NA

26. 消えた学校：証言でつづるみなと･城岳中等学校史／みなと・城岳中等学校同窓会［編］ 那覇：みなと・城岳中等学校同窓会, 1998.8 K376.3-MI
27. 沖縄文教学校ふみの会会誌／沖縄文教学校ふみの会編［出版地不明］：沖縄文教学校ふみの会, 1998.12 K377.4-OK
28. 生涯健康への道程：長寿県沖縄からの提言／琉球大学編 西原町（沖縄県）：琉球大学, 1998.8（沖縄地区大学放送公開講座, 平成10年度） K379.5-OK
29. 沖縄新産業論：100年に1度のチャンス、辺境の逆転／沖縄大学編 那覇：沖縄大学, 1998.9（沖縄地区大学放送公開講座, 平成10年度） K379.5-OK
30. 民俗学から原日本を見る／下野敏見著 東京：吉川弘文館, 1999.1 K381-SH
31. エイサー／大城學執筆;松田米雄編 那覇：沖縄県, 1998.10 K385.7-OS
32. EISA／Manabu Oshiro, Yoneo Matsuda Naha : Okinawa prefecture, 1998.10 K385.7-OS

4類 自然科学

1. 時を超えて生きる：アマミノクロウサギ／浜田太著 東京：小学館, 1999.1 K489.48-HA
2. ハンセン病回復者手記／沖縄楓の友の会編 那覇：沖縄県ハンセン病予防協会, 1999.3 K498.6-OK

5類 技術

1. Orion：40年のあゆみ 浦添：オリオンビール株式会社, 1998.7 K588.54-OR
2. 東京うるまガイド：東京で沖縄を遊ぶ／西石垣文江編 那覇：三浦クリエイティブ, 1998.9 K596.1-TO
3. くがにんぐぁ：てだこのまちの子育て支援／浦添市民生委員児童委員連絡協議会児童福祉専門部会［編］［浦添］：浦添市, 1998.12 K599-UR

6類 産業

1. 南の島の普及活動／沖縄県農林水産部八重山農業改良普及センター編［石垣］：沖縄県農林水産部八重山農業改良普及センター, 1998.3 K611.15-OK
2. 甘藷の文化誌：琉球の甘藷を考える／比嘉武吉著 宜野湾：比嘉菊 宜野湾：榕樹書林（発売), 1998.11 K616.8-HI

7類 芸術

1. 沖縄芸能の美学／外間守善著 東京：沖縄学研究所, 1998.5（沖縄学研究叢書, 2） K701-HO
2. おきぎんふるさとシリーズ／沖縄広報センター編 那覇：沖縄銀行, 1998.3 K709-OK
3. 多幸山（たこーやま）／真喜志康忠脚本;新里堅進劇画 那覇：琉球新報出版部, 1998.8(劇画真喜志康忠シリーズ) K726-GE
4. オキナワ紀聞／砂守勝巳写真・文 東京：双葉社, 1998.6 K748-SU
5. 沖縄八重山諸島：ニューロスクの島々：山中シンジ写真集／山中シンジ写真・文 和歌山：レンガヤ, 1998.2 K748-YA
6. 女声合唱のための四つの沖縄の歌／中村透 作曲 東京：カワイ出版, 1998.6 K767.4-NA
6. 絵本沖縄のわらべうた／儀間比呂志著 那覇：沖縄タイムス社, 1999.1 K767.7-GI

8類 語学

1. 九州方言･南島方言の研究／上村孝二著 東京：秋山書店, 1998.3 K880-TA

9類 文学

1. 島尾敏雄／遠丸立編 東京：日本図書センター, 1997.4（作家の自伝, 60）K902-SH
2. 近代琉歌の基礎的研究／仲程昌徳, 前城淳子編著 東京：勉誠出版,1999.1 K913-NA
3. 海の天蛇／名嘉真恵美子著 東京：短歌研究社, 1998.12（かりん叢書, 第116篇） K915-NA
4. 花ゆうな：合同歌集, 第5集［那覇］：花ゆうな短歌会, 1991.3 K916-HA
5. 複製の舞台／仲本彩泉著［発行地不明］：佐々木薫, 1998.4 K916-NA

6．h部落、中道あたり／仲本螢著［発行地不明］：又吉洋士，1998.4　K917-NA
7．ハテルマシキナ：よみがえりの島・波照間：少年長編叙事詩／桜井信夫著；津田櫓冬画　越谷：かど創房，1998.8　K917-SA
8．炎の街／源河朝良著　南風原町（沖縄県）：あけぼの出版，1998.10　K930-GE
9．波の上のマリア／又吉栄喜著　東京：角川書店，1998.8(新文芸シリーズ) K930-MA
10．恋を売る家／大城立裕著　東京：新潮社，1998.4　K930-OS
11．いくさ世ーを生きぬいて：語り伝えによる沖縄戦／沖縄県生活協同組合連合会編　浦添：沖縄県生活協同組合連合会，1998.3　K950-OK
12．八月十五日の天気図：海軍気象士官の手記：死闘沖縄ことぶき山／矢崎好夫著　東京：国書刊行会，1998.8　K950-YA
13．八重山戦日記／吉田久一著　那覇：ニライ社，1999.3　K950-YO

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1999年2月～1999年4月

仲程昌徳（法文学部）
近代琉歌の基礎的研究／仲程昌徳，前城淳子著　東京：勉誠出版，1999.1　K913-NA

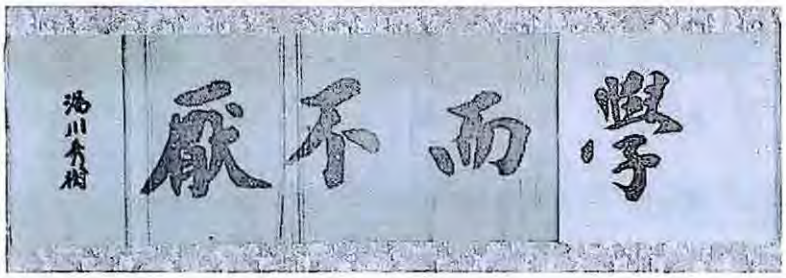
安藤由美（法学文部）
激動の沖縄を生きた人びと：ライフコースのコーホート　分析／安藤由美著　東京：早稲田大学人間総合研究センター，1998.11　K365.5-AN

垣花豊順（法文学部）
個の尊厳について：憲法の理念と大学改革／垣花豊順著　東京：東京布井出版，1998.12　323.01-KA
個人の尊厳と教育の理念：大学改革で個人の尊厳が消える／垣花豊順著［那覇］：垣花豊順，1998.12　323.01-KA

中村哲雄（教育学部）
未来を拓く子どもの教育：琉大附小・校長の体験を通して／中村哲雄著　那覇：国際印刷，1999.2　K375-NA

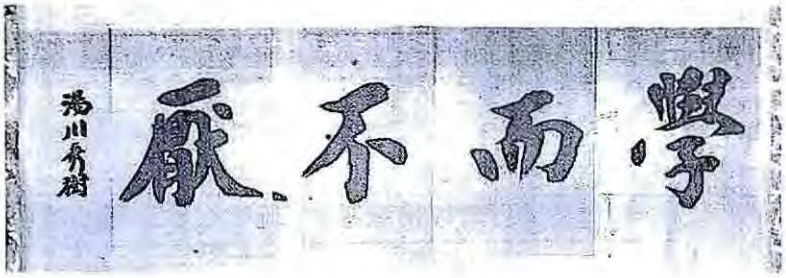
中村　透（教育学部）
女声合唱のための四つの沖縄の歌／中村透作曲　東京：カワイ出版，1998.6　K767.4-NA

注）各資料末尾の記号は請求記号です。



▲落款のない扁額の複製

▼「図書館表札」の原図



安次富長昭名誉教授から左記2点を平成11年5月11日にご寄贈頂いた。資料は湯川秀樹博士が揮毫された「学而不厭」の書の、落款を御遺族より頂く前の扁額の複製と、その文字を1.3倍に拡大し、各文字の間隔を調整しながら制作した「図書館表札」の原図である。

図書館事情

［会議］

◎平成10年度第222回琉球大学附属図書館運営委員会

日時：平成11年3月26日㈮ 15:30～17:00

場所：附属図書館会議室

［協議事項］

1）平成11年度大型コレクション収集計画調書について

2）平成11年度自然科学系図書資料計画調書について

3）修士論文の収集について

4）その他

［報告事項］

1）図書館防火訓練の実施について

2）福建師範大学図書館副館長の来館について

3）国立民族学博物館巡回ゼミナール

4）その他

＊学長プロジェクトについて

＊研究開発室について

＊図書館運営委員会委員の交替について

＊読書案内の原稿の収集状況について

＊図書館職員の異動について

◎第40回医学部分館運営委員会

日時：平成11年2月12日㈮ 16:00～17:00

場所：医学部分館会議室

［協議事項］

1）平成12年度コア・ジャーナルの見直しについて

2）開館時間について

3）学生用・院生用図書の教官選書の向上について

人事異動　　平成11年4月1日現在

区分	異動年月日	氏名	異動先	現職
転出	平成 11.4.1	石田常亞	岡山大学附属図書館事務部長	琉球大学附属図書館事務部長
転入	〃	伊藤祐三	琉球大学附属図書館事務部長	東京大学附属図書館情報管理課長
〃	〃	江澤一裕	琉球大学附属図書館情報管理課総務係	東京大学附属図書館宇宙科学研究所
配置換	〃	金城幸江	琉球大学教育学部総務係主任	琉球大学附属図書館総務係主任
配置換	〃	城間弘充	琉球大学庶務部庶務課庶務係主任	琉球大学附属図書館総務係主任
館内	平成 11.4.1	伊佐牧子	琉球大学附属図書館図書情報係	琉球大学附属図書館参考調査係
〃	〃	与儀実津雄	琉球大学附属図書館雑誌情報係	琉球大学附属図書館参考調査係
〃	〃	上原孝	琉球大学附属図書館参考調査係	琉球大学附属図書館図書情報係
〃	〃	千葉明子	琉球大学附属図書館システム管理係	琉球大学附属図書館図書情報係
〃	〃	山里道子	琉球大学附属図書館参考調査係	琉球大学附属図書館医学部分館
〃	〃	岡本淳子	琉球大学附属図書館医学部分館	琉球大学附属図書館雑誌情報係
文部省転入	〃	古謝久美子	文部省学術情報課大学図書館係	琉球大学附属図書館システム管理係

[附属図書館運営委員]　　平成11年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
附属図書館	館長	石川友紀	～12.10.31	理学部	教授	小智百樹	～13. 3.31
〃	分館長	武藤良弘	～12. 3.31	医学部	教授	小杉忠誠	～11. 9.30
法文学部	教授	川添雅由	～12. 3.31	〃	教授	宮城一郎	～12. 9.30
〃	助教授	知念肇	～13. 3.31	工学部	教授	吉谷清澄	～12. 3.31
教育学部	教授	藤原幸男	～12. 3.31	〃	助教授	米須彰	～13. 3.31
〃	教授	水野益継	～13. 3.31	農学部	教授	吉田茂	～13. 3.31
理学部	教授	池原規勝	～12. 3.31	〃	助教授	吉永安俊	～12. 4.30

[附属図書館医学部分館運営委員]　　平成11年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
分館長	外科学			泌尿器			
第一講座	教授	武藤良弘	～12.03.31	科学講座	教授	小川由英	～12.03.31
法医学				環境保健			
講座	教授	宮崎哲次	～12.03.31	学講座	教授	宮城一郎	～12.09.30
生理学				成人・老人			
第一講座	教授	小杉忠誠	～11.09.30	看護学	助教授	砂川洋子	～12.03.31
歯科口腔外				母子保健			
科学講座	教授	砂川元	～12.03.31	学講座	教授	外間登美子	～12.03.31
内科学							
第二講座	教授	高須信行	～12.03.31				

場　所：琉球大学附属図書館
1階　多目的ホール
上映時間：
☆休業期(水)　13：30～
通常期(水)　①15：00～②17：30～

【7月の予定】

7月7日（水）夏の夜は三たび微笑む：SOMMARNATTENS LEENDE／1955／スウェーデン映画　109分
7月14日（水）愛と哀しみの果て：OUT OF AFRICA／1985／アメリカ映画　161分
☆7月21日（水）赤ひげ：RED BEARD／1965／東宝＝黒澤プロダクション　185分
☆7月28日（水）ダンス・ウィズ・ウルブス：DANCES WITH WOLVES／1990／アメリカ映画　181分

【8月の予定】

☆8月4日（水）誰がために鐘は鳴る：FOR WHOM THE BELL TOLLS／1943／アメリカ映画　130分
☆8月11日（水）ミスタア・ロバーツ：MISTER ROBERTS／1955／アメリカ映画　122分
☆8月18日（水）戦場にかける橋：THE BRIDGE ON THE RIVER KWAI／1957／アメリカ映画　162分
☆8月25日（水）スパルタカス：SPARTACUS／1960／アメリカ映画　197分

【9月の予定】

9月1日（水）ALFRED HITCHCOCK MURDER!：ヒチコックの殺人！／1930／イギリス映画（未公開）104分
9月8日（水）間諜最後の日：THE SECRET AGENT／1936／イギリス映画　84分
9月16日（木）奥様は魔女：I MARRIED A WITCH／1942／アメリカ映画　76分
9月22日（水）処女の泉：JUNGFRUKALLAN／1960／スウェーデン映画　90分
☆9月29日（水）ジェームス・ディーン物語：THE JAMES DEAN STORY／19___／アメリカ映画　82分

※　映画会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで　Tel:（895）8166

お知らせ

◎ 開館案内　1999年7～9月

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

・開館時間　通常期：月～金[黒字]　8:30～22:00　土・日[緑字]　13:00～20:00
　　休業期：月～金[青字]　8:30～17:00　土・日[赤字]　休館
・休 館 日　[赤字]土・日曜（夏季休業：7／10～8／31、秋季休業：9／23～10／3）
　　祝日（7／20, 9／23）、定例休館日（7／22, 8／26, 9／30）
※　本館では当月、翌月の開館案内（カレンダー）を入り口及び掲示板に掲示しています。
　ご留意ください。（年間の開館案内はホームページをご覧ください）

◎ 長期貸出開始

平成11年7月10日（土）～8月31日（火）は夏季休業のため、長期の貸出しを行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。返却期限は、平成11年9月14日（火）です。

また、長期貸出した資料については、貸出延長の手続きはできませんのでご注意ください。

◎ 「読書案内'99」がホームページに

学生の知識や技術の修得、あるいは人間形成のための「読書」へのガイドとして企画された「読書案内'99」が、先生方の執筆によるご協力を得て完成し、「読書案内'97」とともにこの5月より「附属図書館ホームページ」に掲載されています。

とにかくホームページを開いてみることをおすすめします。「お、あの先生も書いているぞ！」と思うものがあるかもしれません。また、先生方の意外な一面を知ることによって、先生方に対して親近感を持つことができ、先生方と学生のみなさんの間でコミュニケーションが持てるきっかけになるかもしれません。学生の皆さんがこれを読んで、「読書」することの歓びを知り、豊かな学生生活を過ごすことが出来ればと願っています。

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第32巻　第3号（通巻第123号）
平成11年7月1日発行
発　行：琉球大学附属図書館　〒903-0214　沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話　098(895)8168　Fax.098(895)8169
発行人：附属図書館事務部長　伊藤祐三　　編集：“びぶりお”編集委員会